

# 第4章

## プロジェクト研究

## 研究主題

### 今養版キャリアプランニング・マトリックスの見直し

～今養版キャリアプランニング・マトリックスの効果的な活用に向けて～

## 1 研究の概要

### (1) 設定理由

今養版キャリアプランニング・マトリックス（以下、「マトリックス」という。）は、“働く力”を軸として作成された経緯があるため、作業学習で目標を設定したり評価したりするには活用しやすい面があるが、生活単元学習では活用しづらいことが昨年度までの研究で課題として挙がってきている。

また、マトリックスは学校教育目標の達成のために作られた“段階表”であるため、平成28年度から変更する学校教育目標に合わせて、マトリックスの内容も見直す必要がある。

そのため、作業学習や生活単元学習を主とした本校の教育課程においてマトリックスを効果的に活用し、日々の授業、生徒の学び、成長に反映させることを目的として、本主題を設定した。

### (2) 研究の内容と方法

マトリックスの見直しを図るため、見直しのみに限定した委員会を立ち上げて取り組んだ。構成メンバーは、教務から一名、昨年度までマトリックスの作成・運用を行っていた研修部から一名（研修部長）、主にマトリックスを授業や評価と関連させるために研究を行っていた生単部会から一名（生単部会チーフ）と作業部会から一名（作業部会チーフ）の四名によって構成し、内容の精査・検討を行い、完成に向けて取り組んだ。

- 研究組織はマトリックス委員会とする。
- これまでの研究において明らかになっている課題を整理する。
- マトリックスと国立特別支援教育総合研究所（以下、特総研）から出されている「知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）」との比較、検討を行う。
- マトリックスに不足していた内容について、特総研のマトリックス、「特別支援教育のためのキャリア教育ガイドブック」から引用し、加筆修正を行う。
- 改訂版として、マトリックスを完成させる。

### (3) 推進日程

- 平成27年11月30日：課題の整理、「知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）」との比較、検討。
- マトリックス（改訂版）の内容の精査、検証①。
- 平成27年12月25日：マトリックス（改訂版）の内容の精査、検証②。
- 平成28年 1月21日：内容や文言等の最終確認。
- 平成28年 1月25日：各形態部会において提示。

- 平成 28 年 2 月 03 日：研究推進委員会において報告。
- 平成 28 年 2 月 12 日：全体研修（校内研究報告会）。

## 2 研究のまとめ

研究を推進するにあたり、昨年度までのマトリックスの課題の整理では、これまでの研究において作業学習部会では活用できていたため、作業以外の生活全般に関わる部分（主に、生活単元学習で扱うことができる内容など）が不足していることを改めて確認した。

また、マトリックスは生徒の実態を踏まえ、本校職員全員の思いに基づいて作成された経緯があるため、その良さを残しながら、国立特別支援教育総合研究所から出されたキャリアプランニング・マトリックスの良さを取り入れることで、本校の生徒の実態に合ったマトリックスを作成することができた。

今養版と特総研のマトリックスとの比較、改訂版マトリックスの文言整理など、委員会の中で話し合われた内容や資料を参考資料として、次に掲載する。

## 3 成果と課題

マトリックスは働く力に主眼を当てて作成されたが、昨年度の研究で、卒業生の実態等から生活面の課題や人間関係のつまずきがトラブルや離職につながるということが明らかになった。そこで、自己理解、コミュニケーション等の生活面の内容を加えることとした。その結果、本校の教育課程の主となる“作業学習”と“生活単元学習”、さらには国語や数学等においても関連させて授業を行うことで、生徒が卒業後に必要な知識や習慣を身に付けることができる指導項目を整理することができた。

平成 27 年度内に作業部会、生単部会において各形態の全体計画を可能な限り整理し、今回作成したマトリックスの内容と関連付けること、さらに今後は、指導内容表と関連させることで、本校の教育活動におけるPDCAサイクルに反映できるようにすることが必要である。

その前提として、「学校教育目標」―「目指す生徒像」―「キャリア教育目標」―「マトリックス」―「各指導の形態（生活単元学習・作業学習等）・各教科の全体計画」―「各指導の形態（生活単元学習・作業学習等）・各教科の年間指導計画」の関連付け、内容の関連性の精査を行うことが必要である。

そして、マトリックスの項目と本校の各教科、道徳、特別活動の指導内容表の項目と照合し、指導内容表に含まれていないマトリックスの項目を指導内容表に入れ、各教科、道徳、特別活動の全体計画を作成すること、及び、教育課程を整理してマトリックスに関連する単元名を抽出し、1年次から3年間の単元配当表を作成し、キャリア教育の全体計画を作成することが必要である。

# 知的障がいのある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）と今養版との比較

※左欄～「特別支援教育のためのキャリア教育ガイドブック」〔独立行政法人国立特別支援教育総合研究所，平成２３年より）  
11Pに一部抜粋

※右欄～今養版キャリアプランニング・マトリックス  
※特総研版の概ね該当しそうな箇所に今養版の項目を配置した。

- 全体として、特総研は「育てたい力」、今養版は表現の末尾が「指導する。」となっている。  
（問題点→改善策）
  - ・今養版の表現は指導方針として押さえると、内容が広くなりすぎるため、曖昧さを残す傾向がある。  
→主語を生徒として「できる。」または「する。」の表現の方が、曖昧さが減ると考えられる。
  - ・年間指導計画との関連が絞り込みにくい。  
→生徒に獲得してほしい力を書く方が、年間指導計画等との関連を明確にしやすい。  
主語を生徒として目標を書くことで評価基準を作りやすいため、実効性と検証性のある目標になる。
- 特総研版の指導内容レベルのものが今養版では「指導方針」として項目化されている。  
→小項目は削除するか、下位の指導目標として入れる。
- 全体の枠組み（横軸の能力・観点）は、  
→今養版のものを整理し、まとめる。

※以下に特総研版と今養版の照合結果を示す。また、特総研版から取り入れるべき項目を太字で示した。  
※内容によって、考えられる指導内容（例）と照合しているものもある（3p、6p）。

1 類似した内容が多い。→（改善策）文言整理。

| 特総研                                                                                                            | 今養版                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【人間関係形成能力】<br>この能力領域は、他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組むことを示している。<br>人とのかわり、自己理解・他者理解系列 |                                                                                                   |
| 自己理解・他者理解                                                                                                      | 指導観点：自己理解<br>指導の柱：長所・課題の理解                                                                        |
| 中学部<br>○ 達成感に基づく肯定的な自己理解，相手の気持ちや考え，立場の理解<br>・「分かった」「できた」という体験の中で自己有用感を得る。<br>・自分と相手の違いに気づき，異性や異年齢の人たちと共に活動する。  | ○自分の長所や課題を踏まえて、自分の気持ちや考えをしっかりと持ち、自分らしさを持てるよう指導する。<br>○他者の気持ちや考えを理解・尊重し、自分のあり方・生き方にいかすことができる力を育てる。 |
| 高等部<br>○ 職業との関係における自己理解，他者の考えや個性の尊重<br>・産業現場等における実習等，実際的な体験を通して，自己の能力や適性を知る。                                   | 指導観点：コミュニケーション                                                                                    |

|                                                                                                                    |                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の言動が相手に及ぼす影響について知る。</li> <li>・他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容する。</li> </ul> | 指導の柱：相手を受け入れ、自らそこに参加する                                                    |
|                                                                                                                    | ○自分や他者のよい点を認め、思いやりを持って、よりよい人間関係を形成できる力を育む。                                |
|                                                                                                                    | 指導観点：感性<br>指導の柱：感受性<br>○事象や人物によって様々な感じ方・とらえ方があることを理解した上で、柔軟に物事を受け入れる心を育む。 |

## 2 生徒の実態と指導者の指導の仕方を踏まえると、内容の焦点化が必要である。→（改善策）文言修正（中学部の内容も入れる）。

| 特総研                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 今養版                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 【人間関係形成能力】<br>集団参加，協力・共同系列                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                     |
| 協力・共同                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 指導観点：応用力<br>指導の柱：意思決定                               |
| 中学部 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集団における役割の理解と協力               <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団活動における目的を共有し、役割を理解して、協力して成し遂げる。</li> </ul> </li> </ul> 高等部 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集団（チーム）の一員としての役割遂行               <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームとして協力・共同して活動に取り組む。</li> </ul> </li> </ul> | ●集団の一員として自ら役割を理解し、協力していくとともに、その役割を遂行していく力を育む。（No.1） |

## 3 解決できない問題に限定する必要がない。相談する上で必要な情報を伝えることも必要である。→（改善策）文言修正（中学部の内容も入れる）。

| 特総研                                                                                                                                                             | 今養版                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 【人間関係形成能力】<br>意思表現系列                                                                                                                                            |                                            |
| 意思表現                                                                                                                                                            | 指導観点：コミュニケーション<br>指導の柱：自分から相手に発信           |
| 中学部 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会生活に必要な意思の表現               <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で、自分の思いや意見を適切に表現する。</li> </ul> </li> </ul> | ○解決出来ない問題に対して、地域の中で適切な相談相手を選んで支援を求める力を育てる。 |

|                                                                                      |                       |                                                                                               |                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 高等部<br>○ 必要な支援を適切に求めたり，相談したりできる表現力<br>・必要な情報を伝えたり，自分の悩みを話せたりする関係を築き，自分の思いや意見を適切に伝える。 |                       |                                                                                               |                                                          |
| 考えられる指導内容（例）                                                                         |                       |                                                                                               |                                                          |
| 単元・題材名                                                                               | ねらい                   | 留意点                                                                                           | 今養版                                                      |
| 夏休みの思い出<br>（生単，国語：中，高）                                                               | 体験した内容を相手に分かるように伝える。  | 5W1H等，意識するポイントを提示し，見たこと，聞いたこと，したこと，感じたことなどを表現に盛り込み，体験した様子が分かるように留意する。                         | <u>○その場に応じたあいさつ、返事・報告をする力と、相手の人権を尊重するような適切な言語能力を育てる。</u> |
| 作業に必要な報告をする<br>（作業：中，高）                                                              | 作業を進める際に必要な報告等を行う。    | 作業の中で「できました」「お願いします」などの報告，連絡のほかに「次に何をすればよいですか」など必要なことばを相手に伝える場面を活動の中に設定する。必要に応じて手がかりカードを準備する。 |                                                          |
| 電話で用件を伝える<br>（生単，国語：中，高）                                                             | 電話で必要な用件を伝える。         | はじめは手順表などの補助手段を利用して用件を伝えることができるようにし，回数をこなして慣れるに従って，補助手段を減らしていく。                               |                                                          |
| 自己紹介<br>（総合，特活：中，高）                                                                  | 自分のことを自分なりの表現で相手に伝える。 | 学年，名前，学校などのほかに，好きなことや自分の夢，頑張っていることなど，その後の会話につながる内容を盛り込んだ内容をおさえるようにする。                         |                                                          |
| 自分の思いを話す<br>（生単，総合：高）                                                                | 相手に自分の思いを素直に表現する。     | カウンセラー等と話す場面の設定や，話しやすい雰囲気をつくることにより，悩みや困ったことを相談することの良さを感じるができるようにする。                           |                                                          |

#### 4 対応する内容がない。→（改善策）内容付加（中学部の内容も入れる）。

| 特総研                                                                                                                                    | 今養版 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 【人間関係形成能力】<br>挨拶・清潔・身だしなみ，場に応じた言動系列                                                                                                    |     |
| 場に応じた言動                                                                                                                                | 今養版 |
| 中学部<br>○ 状況に応じた言葉遣いや振る舞い<br>・相手の立場を考えて話したり行動したりする。<br>高等部<br>○ TP0に応じた言動<br>・場や状況に応じた適切な言葉遣い，服装，身だしなみを心がける。<br>・電話のマナーや訪問時のマナー等を身につける。 |     |

**5 対応する内容があっても、複数の内容がある。→（改善策）内容表現の修正。**

| 特総研                                                                                                                                                                                                                   | 今養版                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| <b>【情報活用能力】</b><br>この能力領域は、学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に活かすことを示している。<br><b>様々な情報への関心、情報収集と活用系列</b>                                                                                              |                                                               |
| 情報収集と活用                                                                                                                                                                                                               | <b>指導観点：応用力</b><br><b>指導の柱：情報活用</b>                           |
| <b>中学部</b><br>○ 進路をはじめ様々な情報の収集と活用<br>・社会の出来事に興味をもち、働く人や仕事について調べる。<br>・情報を得るためには、様々な方法があることを体験をとおして理解する。<br><b>高等部</b><br>○ 職業生活・社会生活に必要な事柄の情報収集と活用<br>・政治、経済、文化などの情報に興味をもち、職業生活に必要な事柄を調べる。<br>・必要な情報を得るための様々な方法を活用する。 | ●希望する進路の実現に向け、卒業後の生活に必要な情報収集（・取捨選択し、自ら判断して活用できる力を育成する。）（No.1） |

**6 対応する内容があっても、具体性が不足していたり、内容が不足している。→（改善策）内容表現の修正、内容付加（中学部の内容も入れる）。**

| 特総研                                                                                                                                                                          | 今養版                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| <b>【情報活用能力】</b><br><b>社会資源の活用とマナー、法や制度の活用系列</b>                                                                                                                              |                                                 |
| 社会資源の活用とマナー                                                                                                                                                                  | 今養版                                             |
| <b>小学部</b><br>○ 地域社会資源の活用と身近なきまり<br>・公共施設や交通機関、いろいろな商店などを実際に利用する。<br>・身近なきまりやマナーに気づきそれらを守って行動する。<br><b>中学部</b><br>○ 社会の仕組み、ルールの理解<br>・地域社会で活動するためのしくみやルールを体験をとおして理解し、生活に活かす。 |                                                 |
| 法や制度の活用                                                                                                                                                                      | <b>指導観点：知識・技術</b><br><b>指導の柱：社会の仕組みなどの知識・技術</b> |
| <b>高等部</b><br>○ 社会の様々な制度やサービスに関する理解と実際生活での利用<br>・社会のルールや制度、職業に必要な資格、各種サービス、相談機関等に関する情報や知識、社会                                                                                 | ●社会人として必要なルール、マナー、礼儀を身につけ、社会の一員として生活できる力を育てる。   |

|                                 |                                                                     |
|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 生活上の規範，法の遵守，権利侵害等への対処方法などを理解する。 | 指導観点：応用力<br>指導の柱：情報活用                                               |
|                                 | ●（希望する進路の実現に向け、卒業後の生活に必要な情報収集・取捨選択し、）自ら判断して活用できる力を育成する。<br>。（No. 2） |

**7 対応する内容があっても、表現が大きすぎて具体性がない。→（改善策）内容表現の修正、内容付加（中学部の内容も入れる）。**

| 特総研                                                                                  | 今養版                                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 【情報活用能力】<br>金銭の扱い，金銭の使い方と管理，消費生活の理解系列                                                |                                               |
| 金銭の使い方と管理                                                                            | 今養版                                           |
| 小学部<br>○ 体験をとおした金銭の大切さの理解<br>・ お金を使って買い物をすることに慣れる。<br>・ お金の大切さに気づき，無駄遣いしないような使い方をする。 |                                               |
| 中学部<br>○ 消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費<br>・ 生活するために必要なものを計画的に消費することや預貯金などをとおして保管の大切さを知る。  |                                               |
| 消費生活の理解                                                                              | 指導観点：知識・技術<br>指導の柱：読み書き計算などの<br>知識・技術         |
| 高等部<br>○ 労働と報酬の関係の理解と計画的な消費<br>・ 計画的な消費生活を送る上で必要な事柄や，労働の対価としての給与の意味を知る。              | ● 身につけた知識（金銭管理、読み書き、計算など）応用し、社会の中で生きていく力を育てる。 |

**8 対応する内容があっても、表現の整理が必要である。→（改善策）内容表現の修正、内容の付加（中学部の内容も入れる）。**

| 特総研                                  | 今養版                                   |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 【情報活用能力】<br>はたらくよろこび，役割の理解と働くことの意義系列 |                                       |
| 役割の理解と働くことの意義                        | 指導観点：応用力<br>指導の柱：人間関係                 |
| 中学部<br>○ 様々な職業があることや働くことに関する体験的理解    | ● 集団の一員として自ら役割を理解し、協力していくとともに、その役割を遂行 |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場見学や実習をととして様々な職業があることを知り、働くことに興味をもつ。</li> <li>○ 学校生活、家庭生活において自分が果たすべき役割の理解と実行</li> <li>・学校生活や家庭生活において、自分が果たすべき役割があることを理解し、継続的に実行する。</li> </ul> <p>高等部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職業及び働くことの意義と社会生活において果たすべき役割の実行</li> <li>・様々な職業が社会や生活に果たしている役割及びその意義を理解する。</li> <li>・社会生活の中で自分が果たすべき役割があることを理解し、実行する。</li> </ul> | <p>していく力を育む。（No.2）</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|

**9 対応する内容があっても、複数の内容があり表現の整理が必要である。→（改善策）内容表現の整理・修正、内容の付加（中学部の内容も入れる）。**

| 特総研                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                   | 今養版                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>【将来設計能力】</b><br/>この能力領域は、夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計することを示している。</p> <p><b>習慣形成系列</b></p>                                                                                                                 |                                                                                                   |                                                                                                                                                      |
| 習慣形成                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                   | <p>指導観点：心と体<br/>指導の柱：心身の健康</p>                                                                                                                       |
| <p>中学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職業生活に必要な習慣形成</li> <li>・将来の職業生活に向けた基本的な習慣の基礎を形成する。</li> </ul> <p>高等部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職業生活に必要な習慣形成</li> <li>・職業生活を遂行するのに必要な実践的な習慣を形成する。</li> </ul> |                                                                                                   | <p>●卒業後の生活を見据え、自ら心と身体<br/>の健康が保てるよう、望ましい生活を組<br/>み立てる力を育てる。<br/>●社会生活・職業生活等に必要な習慣の<br/>形成に向けた指導をするとともに、（余<br/>暇の活用等を図り、前向きに自己の将来<br/>を設計する力を育む。）</p> |
| 考えられる指導内容（例）                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                   |                                                                                                                                                      |
| 項目                                                                                                                                                                                                                                | 内容                                                                                                |                                                                                                                                                      |
| 基本的な生活習慣（中）                                                                                                                                                                                                                       | 一人のできることを増やすとともに、家庭生活等で必要な調理などの基礎的知識技能を身につける。                                                     |                                                                                                                                                      |
| 安全・衛生・健康（中）                                                                                                                                                                                                                       | 自ら安全を意識し、道具や機械などを使用する。また、製作したものが人に触れて落ちないように置き方を工夫したり、作業場所を離れる際は道具を片付ける。さらに、手洗いやうがいなどの必要性を体験的に学ぶ。 | <p>○自らの課題解決に向け、素直な気持ちで物事に取り組む姿勢を育てる。</p> <p>○他者への感謝の心を持ち、それを表現する姿勢を育てる。</p>                                                                          |
| 時間管理（中）                                                                                                                                                                                                                           | 時計やタイムタイマーなどを活用し、開始時間や終了時間を意識しながら作業学習などに取り組むことが挙げられる。                                             |                                                                                                                                                      |
| 体力（中）                                                                                                                                                                                                                             | 自分が好きな運動を継続的に取り組むことで体力の維持、増強を図る。また、ラジオ体操を身につけ、日常的な体力の増進も図る。                                       |                                                                                                                                                      |
| 基本的な生活習慣（高）                                                                                                                                                                                                                       | 社会自立に向けて必要な習慣を身につける。例えば、職業生活においては遅刻や無断欠勤をしない勤務態度を身につけることなども含める。                                   | <p>●自ら仕事の工程や課題を理解し、効率よくやりとげる力を育てる。</p>                                                                                                               |

|             |                                                                                           |  |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 安全・衛生・健康（高） | 作業環境下で常に安全を意識する。自らの健康促進や病気予防に関する知識を身につけ、健康保持の大切さを意識する。                                    |  |
| 時間管理（高）     | スケジュールに合わせて、仕事と自分の生活を組み立てる。また、自分で長期休業中の生活を計画し、それを実行したり、1年間の学校生活に見通しをもちながら生活する力を高める。       |  |
| 体力（高）       | 将来の自分の職業を想定した体力を身につける。例えば、職場によっては、一定時間同じ姿勢（立ち続ける、座り続ける）を保持できることや同じ体の動きを繰り返すことが求められる場合もある。 |  |

※上記の項目は、単に技能を身につけるのではなく、自分の生活を自分で管理、維持していくことを目指すことが大切である。

## 10 対応する内容があっても、複数の内容があたり抽象的すぎる。→（改善策）内容表現の整理・修正、内容の付加（中学部の内容も入れる）。

| 特総研                                                                                                 | 今養版                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【将来設計能力】<br>夢や希望系列                                                                                  |                                                                                                                                                       |
| 夢や希望                                                                                                | 指導観点：応用力<br>指導の柱：将来設計                                                                                                                                 |
| 中学部<br>○ 将来の夢や職業への憧れ<br>・将来への夢や憧れの職業をもつ。<br>高等部<br>○ 働く生活を中心とした新しい生活への期待<br>・職業生活を思い描き、新しい生活へ期待をもつ。 | ●（社会生活・職業生活等に必要な習慣の形成に向けた指導をするとともに、余暇の活用等を図り、）前向きに自己の将来を設計する力を育む。<br>指導観点：感性<br>指導の柱：表現力<br>○（卒業後の豊かな生活を目指し、真・善・美として感じたことを、自身の理想や希望を込めて適切に表現できる力を育む。） |

## 11 対応する内容があっても、複数の内容がある。→（改善策）内容表現の整理・修正。

| 特総研                                                  | 今養版                                                    |
|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 【将来設計能力】<br>やりがい、生きがい・やりがい系列                         |                                                        |
| 生きがい・やりがい                                            | 指導観点：職業<br>指導の柱：職業理解                                   |
| 中学部<br>○ 様々な学習活動への自発的な取組<br>・好きな活動への意欲を様々な学習活動へつなげる。 | ●職業生活の中にやりがいや生きがいを見いだし、（前向きに自己の未来を設計する意識や社会の一員である自覚を育て |

高等部

- 職業の意義の実感と将来設計に基づいた余暇の活用
  - ・働くことにやりがいを感じることで及び将来設計に基づいた余暇活動の活用を考える。

る)。

指導観点：応用力  
指導の柱：将来設計

- (社会生活・職業生活等に必要な習慣の形成に向けた指導をするとともに、) 余暇の活用等を図り、前向きに自己の将来を設計する力を育む。

## 12 対応する内容があっても、複数の内容がある。→ (改善策) 内容表現の整理・修正。

| 特総研                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 今養版                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 【将来設計能力】<br>進路計画系列                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                            |
| 進路計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 指導観点：職業<br>指導の柱：職業理解                                       |
| 中学部 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標を実現するための主体的な進路計画               <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来設計に基づき、主体的に進路計画を立てる。</li> </ul> </li> </ul> 高等部 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 将来設計に結びつく進路計画               <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来設計に結びつく進路計画を行い、卒業後の生活に期待をもつ。</li> </ul> </li> </ul> | ● (職業生活の中にやりがいや生きがいを見だし、) 前向きに自己の未来を設計する意識や社会の一員である自覚を育てる。 |

## 13 対応する内容がない。→ (改善策) 内容付加。(中学部の内容も入れる)。

| 特総研                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 今養版 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 【意思決定能力】<br>この能力領域は、自らの意思と責任でよりよい選択、決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服することを示している。<br>目標設定系列                                                                                                                                                                                                                                                                             |     |
| 目標設定                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 今養版 |
| 中学部 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標の設定と達成への取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の決めた目標に向けて自分で課題を解決しようとする意欲をもつ。</li> </ul> </li> </ul> 高等部 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取組               <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の進路希望に基づいて当面の目標を立てて、その解決に向けて取り組む。</li> </ul> </li> </ul> |     |

**14 対応する内容がない。→（改善策）内容付加。（中学部の内容も入れる）。**

| 特総研                                                                                                                                                                                                       | 今養版 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 【意思決定能力】<br>自己選択，自己選択（決定・責任） 系列                                                                                                                                                                           |     |
| 自己選択（決定・責任）                                                                                                                                                                                               | 今養版 |
| 中学部<br>○ 自己の個性や興味・関心に基づいたよりよい選択<br>・ 自己の個性や興味，関心等に基づいてよりよい選択をしようとする。<br>○ 進路先に関する主体的な選択<br>・ 見学や体験をもとに，進路先を主体的に選択する。<br>高等部<br>○ 産業現場等における実習などの経験に基づく進路選択<br>・ 産業現場等における実習などの経験をもとに，自分の意思と責任で主体的に進路を選択する。 |     |

**15 対応する内容がない。→（改善策）内容付加。（中学部の内容も入れる）。**

| 特総研                                                                                                                                                  | 今養版 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 【意思決定能力】<br>振り返り，肯定的な自己評価系列                                                                                                                          |     |
| 肯定的な自己評価                                                                                                                                             | 今養版 |
| 中学部<br>○ 活動場面での振り返りとそれを次に活かそうとする努力<br>・ 活動場面での振り返りをもとに次の活動に活かそうとする。<br>高等部<br>○ 産業現場等における実習などにおいて行った活動の自己評価<br>・ 産業現場等における実習をととして，より客観的，肯定的に自己を評価する。 |     |

**16 対応する内容があり、概ねよいが再検討する。→（改善策）内容検討。**

| 特総研                | 今養版      |
|--------------------|----------|
| 【意思決定能力】<br>自己調整系列 |          |
| 自己調整               | 指導観点：応用力 |

中学部，高等部

○ 課題解決のための選択肢の活用

・戸惑いや葛藤などに対して，様々な選択肢の中からよりよい選択をする。

指導の柱：意思決定

●卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活において、自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うことができる力を育む。

## 知的障がいのある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス（試案）

### 観点解説

（「特別支援教育のためのキャリア教育ガイドブック」〔独立行政法人国立特別支援教育総合研究所，平成23年より）

#### 【人間関係形成能力】

この能力領域は、他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組むことを示している。

#### 人とのかかわり，自己理解・他者理解系列

| 自己理解・他者理解                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>① 育てたい力</p> <p>中学部</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 達成感に基づく肯定的な自己理解，相手の気持ちや考え，立場の理解</li><li>・ 「分かった」「できた」という体験の中で自己有用感を得る。</li><li>・ 自分と相手の違いに気づき，異性や異年齢の人たちと共に活動する。</li></ul> <p>高等部</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 職業との関係における自己理解，他者の考えや個性の尊重</li><li>・ 産業現場等における実習等，実際の体験を通して，自己の能力や適性を知る。</li><li>・ 自分の言動が相手に及ぼす影響について知る。</li><li>・ 他者の考えや個性を尊重し，自分との差異を認めながらも受容する。</li></ul> <p>② 解説</p> <p>中学部段階では，生徒が達成感に基づいて自信をもち，自らを肯定的に理解する経験を積み重ねることで，自己有用感を高めるようにしたい。職業・家庭や生活単元学習，作業学習などで，達成感や成就感をもって働く活動を積み重ね，働くことに関心がもてるようにすることが大切である。家庭では，連絡ノートなどを活用することで，学校での本人の成果を共有し，努力や取組を認めることが考えられる。また，中学部段階では，異性や年上・年下の相手を理解し，相手の気持ちや考え，また相手の立場や役割を考えることも必要である。さらに，自分の言動の影響について考える機会を設けることも大切である。高等部段階では，達成感や成就感がもてるような体験の積み重ねが肯定的な自己理解へとつながり，肯定的に自分を捉えることが重要である。例えば，自己と他者の違いを意識し自分のことを考える授業を行ったり，産業現場等における実習（以下，現場実習とする）の日誌等を活用して自己を振り返ったり，報告会で発表する機会を設けたりすることなどが考えられる。</p> <p>また，作業学習時で，仕事に必要な技能が自分に備わっているかなどの自己理解を図れるように配慮する必要がある。自分の仕事に責任がもてるようにするためには，作業結果を自ら確認できるようにすることが重要である。さらに，他の人が分担している作業内容についての理解を図り，作業結果を相互に評価できるように配慮することも重要である。</p> <p>他者の考えや個性を尊重し，自分との差異を認め，時には他者から学ぶことも大切である。例えば先輩の話を聞いたり，他者と進路について話しあったりする中で，自分の考えや価値観が明確になるようにしたい。他者を理解し，思いやりの心をもてるようするためには，様々な人たちと交流する場を設定することが大切である。</p> |

③ 考えられる指導内容（例）

| 単元・題材名                | ねらい                    | 留意点                                                                |
|-----------------------|------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 自分を知ろう<br>(生単，総合：中，高) | 自分の好きなこと，嫌いなことなどを確認する。 | 好きなこと，嫌いなことの他に得意なこと，苦手なこと，できないことなども確認する。また，友達の良いところを見つけるように留意する。   |
| 他校との交流<br>(生単，総合：中)   | 友達の良いところを認め，互いに高めあう。   | 交流当日に向けて，自分ができることを精一杯発揮できるように準備をする，当日は友達の良いところを見つけるような場面を作るよう留意する。 |
| 男女の理解<br>(保健体育，生単：高)  | 男女の違いや，互いの特性について理解しあう。 | 違いだけに注目するのではなく，それぞれの特性を生かして協力できるように働きかける。                          |
| 自分探し<br>(生単，総合：高)     | 自分の得意，不得意，適性などを理解する。   | 自分史などを作り，今までの経験や学習によってできるようになったことを振り返りながら，自分について考えることができるようにする。    |
| 作品の鑑賞<br>(美術：中，高)     | 作品を見合って，良さに気づいて次に生かす。  | 友達が工夫している点を探し，優れているところを褒め，今後の意欲や制作の参考にできるようにする。                    |

集団参加，協力・共同系列

| 協力・共同                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>① 育てたい力</p> <p>中学部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集団における役割の理解と協力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団活動における目的を共有し，役割を理解して，協力して成し遂げる。</li> </ul> </li> </ul> <p>高等部</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 集団（チーム）の一員としての役割遂行 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーダーとフォロアーの立場を理解し，チームとして協力・共同して活動に取り組む。</li> </ul> </li> </ul> <p>② 解説</p> <p>中学部段階では，作業学習等の活動において，困ったときには他者から教えてもらったり，他者が困っているときには助けたりしながら，集団（チーム）としての目的を共有し，協力しながら活動に取り組むことが大切である。実際の作業では，自分と仲間との作業分担の関連性を理解して，自分の仕事を責任をもって行うことが大切である。そして，集団で取り組む満足感を味わえるようにする。仕事のきまりや指示などを守り，必要なとき以外は，人の仕事に不要な手出しや口出しをしないこともこの協力・共同に含まれる。他には，サッカーや，バスケットなどの集団スポーツに取り組むことも集団における自分の役割を学ぶ良い機会となる。また，友達と地域の活動に参加し，地域の人と協力して行事の準備や後片付けに取り組むことも良い経験となる。</p> <p>高等部段階では，集団内における自分の役割や関係性を理解し，他者と協力して活動に取り組むことが大切である。作業学習等の活動場面において，同じ工程を他者と一緒に取り組んだり，工程をいくつかに分けてそれぞれが分担して取り組んだりする場合，他者の失敗に気づいたら相手にそのことを伝えたり，自分が分からないときや困ったときに他者に聞いたりしながら，チームとして協調して仕事をするのが大切である。また，職場には様々な立場の人がいることを理解し，チー</p> |

ムの一員として、リーダー、フォロアーの関係を理解し、自分の役割や責任を果たすことが大切である。協力・共同を進めるためには、活動の中でお互いに助けたり助けられたりする経験を積み重ねる中で、互いが尊重し合い、感謝する気持ちをもてるようにしたい。

③ 考えられる指導内容（例）

| 単元・題材名                          | ねらい                          | 留意点                                                                                                            |
|---------------------------------|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 流れ作業での製作活動<br>(作業：中，高)          | 自分の役割を自覚し、自分の工程の成果を次の人に引き継ぐ。 | 作業工程を分担し、前の工程からまわってきた仕事を責任をもって扱い、次の人に渡すときは確実に声かけをすることなどを約束事として確認する。                                            |
| サッカー・バスケット<br>(保健体育：中，高)        | チーム内の役割を理解してプレーする。           | 役割（フォーメーション等）を決めて試合を行ったときと、決めないで行ったときの試合展開の違いを振り返られるような場面をつくる。また、メンバー内で技能差が大きい場合には、シュート専門の生徒などを決めるなどのルールを工夫する。 |
| 学習発表会・販売会等の企画・運営<br>(生単，作業：中，高) | 役割を分担し、協力して会を企画・運営する。        | 係分担では、各係の役割やその係と全体との関係を明確にし、生徒が自ら選んで活動できるようにする。できれば生徒たちだけで話し合う場面を設定する。                                         |
| 合奏・合唱<br>(音楽：中，高)               | パートに分かれ演奏の練習をし、合奏・合唱をする      | 友達同士で互いの演奏を聴きあったり、仕上がりの様子を確認しながら練習する。発表では、練習の成果を精一杯出し、一体感を味わえるようにする。                                           |

## 改訂原案

(1) 今養版の表現に合わせた末尾表現に統一した案

太字の内容項目は、特総研のマトリックスの「育てたい力」である。（HG創英角ポツの項目）。

| 指導観点 | 指導の柱                       | 1 学 年 段 階<br>(学びを通して気づく・知る)                                                        | 2 学 年 段 階<br>(将来を意識し、自ら学ぶ・行動する)                                 | 3 学 年 段 階<br>(将来を見据え、自ら学ぶ・行動する)                        |
|------|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 心と体  | 心身の健康                      | ●健康でたくましい心と体の必要性に気づかせ、身につけることができるよう指導する。                                           | ●自らの心と体の変化をとらえ、心身の健康を維持できるよう指導する。                               | ●卒業後の生活を見据え、自らの心と身体が健康が保てるよう、望ましい生活を組み立てる力を育てる。        |
|      | 基本的生活習慣の確立                 | ●生活リズムを整え、望ましい食生活や規則正しい生活ができるよう指導する。                                               | ●自立した生活を意識し、望ましい生活習慣を身につけることができるよう指導する。                         |                                                        |
|      | 職業生活に必要な習慣形成               | ○将来の職業生活に向けた基本的な習慣の基礎を確立できるよう指導する。                                                 | ○職業生活を遂行するのに必要な実践的な習慣を形成することができるよう指導する。                         | 継続                                                     |
| 自己理解 | 自己有用感、振り返り                 | ○「分かった」「できた」という体験の中で自己有用感を得られるよう指導する。<br>○活動場面での振り返りをもとに次の活動に活かすことができるよう指導する。      | 継続                                                              | 継続                                                     |
|      | 長所・課題の理解                   | ○自分の長所や課題に気づくことができるよう指導する。                                                         | ○より客観的、肯定的に自分の長所や課題を評価することができるよう指導する。                           | ○自分の長所や課題を踏まえて、自分の気持ちや考えをしっかりと持ち、自分らしさを持てるよう指導する。      |
|      | 他者評価の受容                    | ○他者から受けた評価に、耳を傾ける気持ちを育む。<br><br>○自分の言動が相手に及ぼす影響について知る。                             | ○他者から受けた評価を受け入れる気持ちを育む。<br><br>○他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容する。 | ○他者の気持ちや考えを理解・尊重し、自分のあり方・生き方にいかすことができる力を育てる。           |
|      | 職業との関係における自己理解、他者の考えや個性の尊重 | ○職業との関係における自分の能力や適性を理解する力を育てる。                                                     | 継続                                                              | 継続                                                     |
| 職業   | 働く態度・能力                    | ●与えられた仕事の意味を理解して時間いっぱい集中し取り組めるよう指導する。                                              | ●手早さ、正確さ、丁寧さを意識しながら、与えられた仕事に取り組む事ができる力を育てる。                     | ●自らの仕事の工程や課題を理解し、効率よくやりとげる力を育てる。                       |
|      | 職業理解                       | ●身の回りのいろいろな仕事について、社会との関わりやその仕事に求められる能力などを考える力を育てる。                                 | ●自分の適性が分かり、将来の職業について具体的に考えることができる力を育てる。                         | ●職業生活の中にやりがいや生きがいを見だし、前向きに自己の未来を設計する意識や社会の一員である自覚を育てる。 |
|      |                            | ○職場見学や実習を通して様々な職業があることを知り、働くことに興味をもつことができるよう指導する。                                  | ○様々な職業が社会や生活に果たしている役割及びその意義を理解する。                               | 継続                                                     |
|      | 社会における役割理解                 | ○学校生活や家庭生活において、自分が果たすべき役割があることを理解し、継続的に実行することができるよう指導する。                           | ○社会生活の中で自分が果たすべき役割があることを理解し、実行することができる力を育てる。                    | 継続                                                     |
|      | 主体的な選択                     | ○自己の個性や興味、関心等に基づいてよりよい選択をしようとする生徒を育てる。<br>○戸惑いや葛藤などに対して、様々な選択肢の中からよりよい選択をする生地を育てる。 | ○見学や体験をもとに、進路先を主体的に選択する力を育てる。                                   | ○産業現場等における実習などの経験をもとに、自分の意思と責任で主体的に進路を選択する力を育てる。       |
|      | 夢・新しい生活への期待                | ○将来への夢や憧れの職業をもつ。                                                                   | ○職業生活を思い描き、新しい生活へ期待をもつ。                                         | 継続                                                     |
| 自己   | 物事に対する意欲                   | ○時間いっぱい集中して学習する意識を持ち、目標を達成しようとする気持ちを育む。                                            | 継続                                                              | ○自らの課題解決に向け、素直な気持ちで物事に取り組む姿勢を育てる。                      |

|                               |                              |                                                                                                              |                                                   |                                                         |
|-------------------------------|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 内<br>省                        |                              | ○自主的・積極的に活動に取り組む大切さを知り、自ら努力を続けようとする気持ちを育む。<br>○ <b>将来の進路希望に基づいて当面の目標を立てて、その解決に向けて取り組む力を育てる。</b>              | 継続<br><br>継続                                      | ○他者への感謝の心を持ち、それを表現する姿勢を育てる。<br><br>継続                   |
|                               | 課題を解決しようとする心                 | ○成功や失敗を繰り返しながら反省を積み重ね、他者の意見も受け入れながら、自分の気持ちや考えを整理する力を育てる。<br>○自己決定・自己反省の過程を繰り返し、課題を解決する姿勢を育てる。                | 継続                                                | 継続                                                      |
| 知<br>識<br>・<br>技<br>術         | 社会の仕組みなどの知識・技術               | ●集団生活を通して、社会のルール、マナー、礼儀などを意識して生活し、行動できる生徒を育てる。<br>○ <b>地域社会で活動するためのしくみやルールを体験を通して理解し、生活に活かすことができる生徒を育てる。</b> | ●社会のルール、マナー、礼儀などを、状況に応じて使うことができる生徒を育てる。<br><br>継続 | ●社会人として必要なルール、マナー、礼儀を身につけ、社会の一員として生活できる力を育てる。<br><br>継続 |
|                               | 社会制度やサービスに関する理解と実生活での利用      | ○社会のルールや制度、職業に必要な資格、各種サービス、相談機関等に関する情報や知識、社会生活上の規範、法の遵守、権利侵害等への対処方法などを理解する。                                  | 継続                                                | 継続                                                      |
|                               | 読み書き計算などの知識・技術               | ●金銭管理や読み書き、計算などの生活に必要な基礎的知識が身につくよう指導する。<br>○ <b>収入と支出のバランスを考えて、生活や余暇に必要なものを選び、計画的にお金を使うことが大切であるとわかる。</b>     | ●身につけた知識を、日常生活で生かすことができる生徒を育てる。                   | ●身につけた知識を応用し、社会の中で生きていく力を育てる。                           |
|                               | 消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費     | ○生活するために必要なものを計画的に消費することや預貯金などを通して保管の大切さを知る。                                                                 | 継続                                                | 継続                                                      |
|                               | 労働と報酬の関係の理解と計画的な消費           | ○計画的な消費生活を送る上で必要な事柄や、労働の対価としての給与の意味を知る。                                                                      | 継続                                                | 継続                                                      |
|                               | 自分から相手に発信                    | ○場や状況に合わせた声の大きさで、挨拶、返事・報告ができる力を育む。                                                                           | ○挨拶や返事、簡単な敬語を使うなど、社会生活に必要な意思表現能力が高まるよう、日常的に指導する。  | ○その場に合った挨拶、返事・報告をする力と、相手の人権を尊重するような適切な言語能力を育てる。         |
| コ<br>ミ<br>ュ<br>ニ<br>ケー<br>ション | 状況に応じた言葉遣いや振る舞い<br>TP0に応じた言動 | ○相手の立場を考えて話したり行動したりする力を育む。<br><br>○場や状況に応じた適切な言葉遣い、服装、身だしなみを心がけることができる生徒を育てる。                                | 継続<br><br>継続                                      | 継続<br><br>継続                                            |
|                               | 社会生活に必要な意思表現                 | ○集団の中で、自分の思いや意見を適切に表現する力を育む。                                                                                 | 継続                                                | 継続                                                      |
|                               | 相手の話を聞いて判断                   | ○相手の話を最後まで落ち着いて聞くことができる力を育む。                                                                                 | ○必要な支援を他者に求めることができる力を育む。                          | ○解決出来ない問題に対して、地域の中で適切な相談相手を選んで支援を求める力を育てる。              |
|                               | 必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力    | ○必要な情報を伝えたり、自分の悩みを話せたりする関係を築き、自分の思いや意見を適切に伝える力を育む。                                                           | 継続                                                | 継続                                                      |
|                               | 相手を受け入れ                      | ○相手の考え・気持ちを受け入れる力や集団に合わせる力を                                                                                  | ○相手の立場や考え方を理解して受け入れ、かかわることが                       | ○自分や他者のよい点を認め、思いやりを持って、よりよい人                            |

|     |             |                                                                                                                            |                                                         |                                                                 |
|-----|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
|     | れ、自らそこに参加する | 育てる。<br>○自分と相手の違いに気づき、異性や異年齢の人たちと共に活動する。                                                                                   | できる力を育てる。                                               | 間関係を形成できる力を育む。                                                  |
| 応用力 | 意思決定        | ●TPOに応じて何ができるか、何をすべきかの選択肢を与え、その意味をを理解させ、選択していける（判断する）力を育てる。                                                                | ●TPO、自己の個性や興味・関心に基づいて、よりよい選択をできる力を育む。                   | ●卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活において、自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うことができる力を育む。        |
|     | 将来設計        | ●目標を達成するためには行程があることを理解させ、与えられた計画や工程に取り組ませ、習慣化できるよう指導する。                                                                    | ●家庭生活・学校生活に必要な習慣の確立を目指し、職業生活に活かす力を育む。                   | ●社会生活・職業生活等に必要な習慣の形成に向けた指導をするとともに、余暇の活用等を図り、前向きに自己の将来を設計する力を育む。 |
|     | やりがい・生きがい   | ○好きな活動への意欲を様々な学習活動へつなげることができるよう指導する。                                                                                       | ○働くことにやりがいを感じられる力を育てる。                                  | 継続                                                              |
|     | 情報活用        | ●学校・寄宿舍・地域社会の中には様々な活動があることを、体験を通じて理解できるよう指導する。<br><br>○社会の出来事に興味をもち、働く人や仕事について調べること、情報を得るためには様々な方法があることを体験を通して理解できるよう指導する。 | ●政治、経済、文化など自らの興味のある活動や職業等に関して、様々な情報を収集し、自ら活用できる力を育成する。  | ●希望する進路の実現に向け、卒業後の生活に必要な情報収集・取捨選択し、自ら判断して活用できる力を育成する。           |
|     | 人間関係        | ●集団活動に参加し、他者と協力することができる力を育む。<br><br>○リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームとして協力・共同して活動に取り組む。                                               | ●集団において自分が果たす役割を理解し、周りと協力することができる力を育む。<br><br>継続        | ●集団の一員として自ら役割を理解し、協力していくとともに、その役割を遂行していく力を育む。<br><br>継続         |
| 感性  | 感受性         | ○事象や人物によって様々な感じ方・とらえ方があることを知り、経験や疑似体験を通じてその価値に気づいたり認めたりできる心を育む。                                                            | 継続                                                      | ○事象や人物によって様々な感じ方・とらえ方があることを理解した上で、柔軟に物事を受け入れる心を育む。              |
|     | 表現力         | ○真・善・美として感じたことを言葉・造形・音楽・行動などで表現できる力を育む。                                                                                    | ○真・善・美として感じたことを、自身の理想や希望を込めて言葉・造形・音楽・行動などで適切に表現できる力を育む。 | ○卒業後の豊かな生活を目指し、真・善・美として感じたことを、自身の理想や希望を込めて適切に表現できる力を育む。         |

本校の指導内容表に末尾表現を合わせた改訂案① ※下線部分は末尾表現以外で表現を修正した部分。

| 指導観点       | 指導の柱                         | 1 学 年 段 階<br>(学びを通して気付く・知る)                                                                                                         | 2 学 年 段 階<br>(将来を意識し、自ら学ぶ・行動する)                                        | 3 学 年 段 階<br>(将来を見据え、自ら学ぶ・行動する)                                     |
|------------|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 心と体        | 心身の健康                        | ●健康でたくましい心と体の必要性に <u>気付</u> き、身につける。                                                                                                | ●自らの心と体の変化をとらえ、心身の健康を維持できる。                                            | ●卒業後の生活を見据え、自ら心と身体の健康が保てるよう、 <u>望ましい生活</u> を考え、 <u>実行</u> する。       |
|            | 基本的生活習慣の確立<br>職業生活に必要な習慣形成   | ●生活リズムを整え、望ましい食生活や規則正しい生活ができる。<br>○将来の職業生活に向けた基本的な習慣の基礎を確立できる。                                                                      | ●自立した生活を意識し、望ましい生活習慣を身につけることができる。<br>○職業生活を遂行するのに必要な実践的な習慣を形成することができる。 | 継続                                                                  |
| 自己理解<br>職業 | 自己有用感、振り返り                   | ○「分かった」「できた」という体験の中で自己有用感を得られる。<br>○活動場面での振り返りをもとに次の活動に活かすことができる。                                                                   | 継続                                                                     | 継続                                                                  |
|            | 長所・課題の理解                     | ○自分の長所や課題に気付くことができる。                                                                                                                | ○より客観的、肯定的に自分の長所や課題を評価することができる。                                        | ○自分の長所や課題を踏まえて、自分の気持ちや考えをしっかりと持ち、自分らしさを持てる。                         |
|            | 他者評価の受容                      | ○他者から受けた評価に、耳を傾け、受け入れる気持ちを持つ。                                                                                                       | ○他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容する。                                       | ○他者の気持ちや考えを理解・尊重し、自分のあり方・生き方にいかすことができる。                             |
|            | 働く態度・能力                      | ●与えられた仕事の意味を理解して時間いっぱい集中し取り組める。                                                                                                     | ●手早さ、正確さ、丁寧さを意識しながら、与えられた仕事に取り組むことができる。                                | ●自ら仕事の工程や課題を理解し、効率よくやり遂げることができる。                                    |
|            | 職業理解                         | ○職場見学や実習を通して様々な職業があることを知り、働くことに関心をもつことができる。<br>●身の回りのいろいろな職業が社会や生活に果たしている役割や意義を理解し、その仕事に求められる能力などを考える。<br>○職業との関係における自分の能力や適性を理解する。 | 継続                                                                     | 継続                                                                  |
|            | 社会における役割理解                   | ○学校生活や家庭生活において、自分が果たすべき役割があることを理解し、継続的に実行することができる。                                                                                  | ○社会生活の中で自分が果たすべき役割があることを理解し、実行することができる。                                | 継続                                                                  |
|            | 主体的な選択                       | ○自己の個性や興味、関心等に基づいてよりよい選択をしようとする <del>こと</del> ができる。<br>○戸惑いや葛藤などに対して、様々な選択肢の中からよりよい選択をする。                                           | ○見学や体験をもとに、進路先を主体的に選択する。                                               | ○産業現場等における実習などの経験をもとに、自分の意思と責任で主体的に進路を選択する。                         |
|            | 夢・新しい生活への期待                  | ○将来への夢や憧れの職業をもつ。                                                                                                                    | ○職業生活を思い描ぎ、新しい生活へ期待をもつ。                                                | 継続                                                                  |
| 自己内省       | 物事に対する意欲                     | ○時間いっぱい集中して学習する意識を持ち、目標を達成しようとする気持ちをもつ。<br>○自主的・積極的に活動に取り組む大切さを知り、自ら努力を続けようとする気持ちをもつ。<br>○将来の進路希望に基づいて当面の目標を立てて、その解決に向けて取り組む。       | 継続<br>継続<br>継続                                                         | ○自らの課題解決に向け、素直な気持ちで物事に取り組む。<br><br>○他者への感謝の心を持ち、それを表現する。            |
|            | 課題を解決しようとする心                 | ○成功や失敗を繰り返しながら反省を積み重ね、他者の意見も受け入れながら、自分の気持ちや考えを振り返り、整理することができる。<br>○自己決定・自己反省の過程を繰り返し、課題を解決する姿勢をもつ。                                  | 継続                                                                     | 継続<br>継続                                                            |
| 知識・技術      | 社会の仕組みなどの知識・技術               | ●集団生活を通して、社会のルール、マナー、礼儀などを意識して生活し、行動できる。                                                                                            | ●社会のルール、マナー、礼儀などを、状況に応じて使うことができる。                                      | ●社会人として必要なルール、マナー、礼儀を身につけ、社会の一員として生活できる。                            |
|            | 社会制度やサービスに関する理解と実際生活での利用     | ○社会のルールや制度、職業に必要な資格、各種サービス、相談機関等に関する情報や知識を理解する。                                                                                     | 社会生活上の規範、法の遵守、権利侵害等への対処方法などを理解する。                                      | 継続                                                                  |
|            | 読み書き計算などの知識・技術               | ●金銭管理や読み書き、計算などの生活に必要な基礎的知識が身につける。                                                                                                  | ●身につけた知識を、日常生活で生かすことができる。                                              | 継続                                                                  |
| コミュニケーション  | 消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費     | ○生活するために必要なものを計画的に消費することや預貯金などを通して保管の大切さを知る。<br>○計画的な消費生活を送る上で必要な事柄や、労働の対価としての給与の意味を知る。                                             | ○収入と支出のバランスを考えて、生活や余暇に必要なものを選び、計画的にお金を使ったり、貯蓄したりすることが大切であると分かる。        | ○収入と支出のバランスを考えて、生活や余暇に必要なものを選び、計画的にお金を使ったり、貯蓄したりすることができる。           |
|            | 自分から相手に発信                    | ○場や状況に合わせた声の大きさで、挨拶、返事・報告ができる。                                                                                                      | ○挨拶や返事、簡単な敬語を使うなど、社会生活に必要な意思表示ができる。                                    | ○その場に応じた挨拶、返事・報告や相手の人権を尊重した発言をすることができる。                             |
|            | 状況に応じた言葉遣いや振る舞い<br>TPOに応じた言動 | ○相手の立場を考えて話したり行動したりする。<br>○場や状況に応じた適切な言葉遣い、服装、身だしなみを心がけることができる。                                                                     | 継続<br>継続                                                               | 継続<br>継続                                                            |
|            | 社会生活に必要な意思表示                 | ○集団の中で、自分の思いや意見を適切に表現する。                                                                                                            | 継続                                                                     | 継続                                                                  |
|            | 相手の話を聞いて判断                   | ○相手の話を最後まで落ち着いて聞くことができる。                                                                                                            | ○必要な支援を他者に求めることができる。                                                   | ○解決出来ない問題に対して、地域の中で適切な相談相手を選んで支援を求めることができる。                         |
|            | 必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力    | ○必要な情報を伝えたり、自分の悩みを話せたりする関係を築き、自分の思いや意見を適切に伝える。                                                                                      | 継続                                                                     | 継続                                                                  |
|            | 相手を受け入れ、自らそこに参加する            | ○相手の考え・気持ちを受け入れたり、集団に合わせたりすることができる。<br>○自分と相手の違いに気付き、異性や異年齢の人たちと共に活動する。                                                             | ○相手の立場や考え方を理解して受け入れ、かかわることができる。                                        | ○自分や他者のよい点を認め、思いやりを持って、よりよい人間関係を作り上げることができる。                        |
| 応用力        | 意思決定                         | ●TPOに応じて何ができるか、何をすべきが考え、判断し選択する。                                                                                                    | ●TPO、自己の個性や興味・関心に基づいて、よりよい選択ができる。                                      | ●卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活において、自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うことができる。                |
|            | 将来設計                         | ●目標を達成するためには行程があることを理解し、与えられた計画や工程に取り組むことができる。                                                                                      | ●家庭生活・学校生活に必要な習慣を確立する。                                                 | ●社会生活・職業生活等に必要な習慣を確立するとともに、余暇の活用等を図り、心豊かな理想とする将来の生活を前向きに設計することができる。 |
|            | やりがい・生きがい                    | ○好きな活動への意欲を様々な学習活動へつなげることができる。                                                                                                      | ○働くことにやりがいを感じられる。                                                      | 継続                                                                  |
|            | 情報活用                         | ●学校・寄宿舍・地域社会の中には様々な活動があることを、体験を通じて理解できる。<br>○社会の出来事に興味をもち、働く人や仕事について調べることで、情報を得るためには様々な方法があることを体験を通して理解できる。                         | ●政治、経済、文化など自らの興味のある活動や職業等に関して、様々な情報を収集し、自ら活用できる。                       | ●希望する進路の実現に向け、卒業後の生活に必要な情報収集・取捨選択し、自ら判断して活用できる。                     |
|            | 人間関係                         | ●集団活動に参加し、他者と協力することができる。                                                                                                            | ●集団において自分が果たす役割を理解し、周りと協力することができる。                                     | ●集団の一員として自ら役割を理解し、協力していくとともに、その役割を遂行していくことができる。                     |
|            |                              | ○リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームとして協力・共同して活動に取り組む。                                                                                            | 継続                                                                     | 継続                                                                  |
| 感性         | 感受性                          | ○事象や人によって様々な感じ方・とらえ方があることを知り、経験や疑似体験を通じてその価値に気付いたり認めたりできる。                                                                          | 継続                                                                     | ○事象や人によって様々な感じ方・とらえ方があることを理解した上で、柔軟に物事を受け入れる。                       |
|            | 表現力                          | ○真・善・美として感じたことを言葉・造形・音楽・行動などで表現できる。                                                                                                 | ○真・善・美として感じたことを、自身の理想や希望を込めて言葉・造形・音楽・行動などで適切に表現できる。                    | ○卒業後の豊かな生活を目指し、真・善・美として感じたことを、自身の理想や希望を込めて適切に表現できる。                 |

※感性の項目は、特総研のマトリックスではなく、他の項目と重複しているため、その主旨を他の項目の表現に付加して整理、削除する。

改訂案②

| 指導観点      | 心と体                       | 1 学 年 段 階<br>(学びを通して気付く・知る)                                                                                                                    |  |  |  | 2 学 年 段 階<br>(将来を意識し、自ら学ぶ・行動する)                                                 |  |  |  | 3 学 年 段 階<br>(将来を見据え、自ら学ぶ・行動する)                                                        |  |  |  |
|-----------|---------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|---------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|----------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|
|           |                           |                                                                                                                                                |  |  |  |                                                                                 |  |  |  |                                                                                        |  |  |  |
| 職業        | 心身の健康                     | ●健康でたくましい心と体の必要性に気付き、身につける。                                                                                                                    |  |  |  | ●自らの心と体の変化をとらえ、心身の健康を維持できる。                                                     |  |  |  | ●卒業後の生活を見据え、自ら心と身体の健康が保てるよう、望ましい生活を考え、実行する。                                            |  |  |  |
|           | 基本的生活習慣の確立                | ●生活リズムを整え、望ましい食生活や規則正しい生活ができる。                                                                                                                 |  |  |  | ●目立した生活を意識し、望ましい生活習慣を身につけることができる。                                               |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 職業生活に必要な習慣形成              | ○将来の職業生活に向けた基本的な習慣の基礎を確立できる。                                                                                                                   |  |  |  | ○職業生活を運行するのに必要な実践的な習慣を形成することができる。                                               |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 自己有用感、振り返り                | ○「分かった」「できた」という体験の中で自己有用感を得られる。<br>○活動場面での振り返りをもとに次の活動に活かすことができる。                                                                              |  |  |  | 継続                                                                              |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 長所・課題の理解                  | ○自分の長所や課題に気付くことができる。                                                                                                                           |  |  |  | ○より客観的、肯定的に自分の長所や課題を評価することができる。                                                 |  |  |  | ○自分の長所や課題を踏まえて、自分の気持ちや考えをしっかりと持ち、自分らしさを持てる。<br>○他者の気持ちや考えを理解・尊重し、自分のあり方・生き方にいかすことができる。 |  |  |  |
|           | 他者評価の受容                   | ○他者から受けた評価に、耳を傾け、受け入れる気持ちを持つ。<br>○自分の言動が相手に及ぼす影響について知る。<br>●与えられた仕事の意味を理解して時間いっぱい集中し取り組める。                                                     |  |  |  | ○他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容する。<br><br>●手早さ、正確さ、丁寧さを意識しながら、与えられた仕事に取り組むことができる。 |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 働く態度・能力                   | ●職場見学や実習を通して様々な職業があることを知り、働くことに関心をもつことができる。                                                                                                    |  |  |  | ●自分の能力や適性を踏まえて、将来の職業について具体的に考えることができる。                                          |  |  |  | ●職業生活の中にやりがいや生きがいを見いだし、前向きに自己の未来を設計する意識や社会の一員である自覚をもてる。                                |  |  |  |
|           | 職業理解                      | ○身の回りのいろいろな職業が社会や生活に果たしている役割や意義を理解し、その仕事に求められる能力などを考える。<br>○職業との関係における自分の能力や適性を理解する。<br>○学校生活や家庭生活において、自分が果たすべき役割があることを理解し、継続的に実行することができる。     |  |  |  | ○社会生活の中で自分が果たすべき役割があることを理解し、実行することができる。                                         |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 社会における役割理解                | ○自己の個性や興味、関心等に基づいてよりよい選択をしようとするこができる。<br>○戸惑いや葛藤などに対して、様々な選択肢の中からよりよい選択をする。<br>○将来への夢や憧れの職業をもつ。                                                |  |  |  | ○職業生活を思い描き、新しい生活へ期待をもつ。                                                         |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 主体的な選択                    | ○自己の個性や興味、関心等に基づいてよりよい選択をしようとするこができる。<br>○戸惑いや葛藤などに対して、様々な選択肢の中からよりよい選択をする。<br>○将来への夢や憧れの職業をもつ。                                                |  |  |  | ○職業生活を思い描き、新しい生活へ期待をもつ。                                                         |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 夢・新しい生活への期待               | ○自己の個性や興味、関心等に基づいてよりよい選択をしようとするこができる。<br>○戸惑いや葛藤などに対して、様々な選択肢の中からよりよい選択をする。<br>○将来への夢や憧れの職業をもつ。                                                |  |  |  | ○職業生活を思い描き、新しい生活へ期待をもつ。                                                         |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
| 自己内省      | 物事に対する意欲                  | ○時間いっぱい集中して学習する意識を持ち、目標を達成しようとする気持ちをもつ。<br>○自主的・積極的に活動に取り組む大切さを知り、自ら努力を続けようとする気持ちをもつ。<br>○将来の進路希望に基づいて当面の目標を立てて、その解決に向けて取り組む。                  |  |  |  | 継続                                                                              |  |  |  | ○自らの課題解決に向け、素直な気持ちで物事に取り組む。<br><br>○他者への感謝の心を持ち、それを表現する。                               |  |  |  |
|           | 課題を解決しようとする心              | ○成功や失敗を繰り返しながら反省を積み重ね、他者の意見も受け入れながら、自分の気持ちや考えを振り返り、整理することができる。<br>○自己決定・自己反省の過程を繰り返し、課題を解決する姿勢をもつ。<br>●集団生活を通して、社会のルール、マナー、礼儀などを意識して生活し、行動できる。 |  |  |  | ●社会のルール、マナー、礼儀などを、状況に応じて使うことができる。                                               |  |  |  | ●社会人として必要なルール、マナー、礼儀を身につけ、社会の一員として生活できる。                                               |  |  |  |
| 知識・技術     | 社会の仕組みなどの知識・技術            | ○社会のルールや制度、職業に必要な資格、各種サービス、相談機関等に関する情報や知識を理解する。                                                                                                |  |  |  | 社会生活上の規範、法の遵守、権利侵害等への対処方法などを理解する。                                               |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 社会制度やサービスに関する理解と实际生活での利用  | ●金銭管理や読み書き、計算などの生活に必要な基礎的知識が身につける。                                                                                                             |  |  |  | ●身につけた知識を、日常生活で生かすことができる。                                                       |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 読み書き計算などの知識・技術            | ○生活するために必要なものを計画的に消費することや預貯金などを通して保管の大切さを知る。<br>○計画的な消費生活を送る上で必要な事柄や、労働の対価としての給与の意味を知る。                                                        |  |  |  | ○収入と支出のバランスを考えて、生活や余暇に必要なものを選び、計画的にお金を使ったり、貯蓄したりすることが大切であると分かる。                 |  |  |  | ○収入と支出のバランスを考えて、生活や余暇に必要なものを選び、計画的にお金を使ったり、貯蓄したりすることができる。                              |  |  |  |
|           | 消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費  | ○生活するために必要なものを計画的に消費することや預貯金などを通して保管の大切さを知る。<br>○計画的な消費生活を送る上で必要な事柄や、労働の対価としての給与の意味を知る。                                                        |  |  |  | ○収入と支出のバランスを考えて、生活や余暇に必要なものを選び、計画的にお金を使ったり、貯蓄したりすることが大切であると分かる。                 |  |  |  | ○収入と支出のバランスを考えて、生活や余暇に必要なものを選び、計画的にお金を使ったり、貯蓄したりすることができる。                              |  |  |  |
| コミュニケーション | 自分から相手に発信                 | ○場や状況に合わせた声の大きさで、挨拶、返事・報告ができる。                                                                                                                 |  |  |  | ○挨拶や返事、簡単な敬語を使うなど、社会生活に必要な意思表現ができる。                                             |  |  |  | ○その場に応じた挨拶、返事・報告や相手の人権を尊重した発言をすることができる。                                                |  |  |  |
|           | 状況に応じた言葉遣いや振る舞い、TPOに応じた言動 | ○相手の立場を考えて話したり行動したりする。<br>○場や状況に応じた適切な言葉遣い、服装、身だしなみを心がけることができる。                                                                                |  |  |  | 継続                                                                              |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 社会生活に必要な意思表現              | ○集団の中で、自分の思いや意見を適切に表現する。                                                                                                                       |  |  |  | 継続                                                                              |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 相手の話を聞いて判断                | ○相手の話を最後まで落着いて聞くことができる。                                                                                                                        |  |  |  | ○必要な支援を他者に求めることができる。                                                            |  |  |  | ○解決出来ない問題に対して、地域の中で適切な相談相手を選んで支援を求めることができる。                                            |  |  |  |
|           | 必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力 | ○必要な情報を伝えたり、自分の悩みを話せたりする関係を築き、自分の思いや意見を適切に伝える。                                                                                                 |  |  |  | 継続                                                                              |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 相手を受け入れ、自らそこに参加する         | ○相手の考え・気持ちを受け入れたり、集団に合わせたりすることができる。<br>○自分と相手の違いに気付き、異性や異年齢の人たちと共に活動する。                                                                        |  |  |  | ○相手の立場や考え方を理解して受け入れ、かかわることができる。                                                 |  |  |  | ○自分や他者のよい点を認め、思いやりを持って、よりよい人間関係を作り上げることができる。                                           |  |  |  |
|           | 雇用関係                      | ●TPOに応じて何ができるか、何をすべきか考え、判断し選択する。                                                                                                               |  |  |  | ●TPO、自己の個性や興味・関心に基づいて、よりよい選択ができる。                                               |  |  |  | ●卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活において、自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うことができる。                                   |  |  |  |
| 応用力       | 将来設計                      | ●目標を達成するためには行程があることを理解し、与えられた計画や工程に取り組むことができる。                                                                                                 |  |  |  | ●家庭生活・学校生活に必要な習慣を確立する。                                                          |  |  |  | ●社会生活・職業生活等に必要な習慣を確立するとともに、余暇の活用等を図り、心豊かな理想とする将来の生活を前向きに設計することができる。                    |  |  |  |
|           | やりがい・生きがい                 | ○好きな活動への意欲を様々な学習活動へつなげることができる。                                                                                                                 |  |  |  | ○働くことにやりがいを感じられる。                                                               |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |
|           | 情報活用                      | ●学校・寄宿舍・地域社会の中には様々な活動があることを、体験を通じて理解できる。<br>○社会の出来事に興味をもち、働く人や仕事について調べることで、情報を得るためには様々な方法があることを体験を通して理解できる。                                    |  |  |  | ●政治、経済、文化など自らの興味のある活動や職業等に関して、様々な情報を収集し、自ら活用できる。                                |  |  |  | ●希望する進路の実現に向け、卒業後の生活に必要な情報収集・取捨選択し、自ら判断して活用できる。                                        |  |  |  |
|           | 人間関係                      | ●集団活動に参加し、他者と協力することができる。                                                                                                                       |  |  |  | ●集団において自分が果たす役割を理解し、周りと協力することができる。                                              |  |  |  | ●集団の一員として自ら役割を理解し、協力していくとともに、その役割を遂行していくことができる。                                        |  |  |  |
|           |                           | ○リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームとして協力・共同して活動に取り組む。                                                                                                       |  |  |  | 継続                                                                              |  |  |  | 継続                                                                                     |  |  |  |

今養版キャリアプランニングマトリックス（改訂版）

平成 28 年 1 月 21 日

| 指導観点      | 指導の柱                      | 1 学 年 段 階<br>（学びを通して気付く・知る）                                                                                                                     | 2 学 年 段 階<br>（将来を意識し、自ら学ぶ・行動する）                           | 3 学 年 段 階<br>（将来を見据え、自ら学ぶ・行動する）                                           |
|-----------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 心と体       | 心身の健康                     | ○健康でたくましい心と体の必要性に気付き、身につけることができる。                                                                                                               | ○自分の心と体の変化をとらえ、心身の健康を維持することができる。                          | ○卒業後の生活を見据え、自ら心と身体の健康が保てるよう、望ましい生活を考え、実行することができる。                         |
|           | 基本的生活習慣の確立                | ○生活リズムを整え、基本的な食生活や規則正しい生活がわかる。                                                                                                                  | ○自立した生活を意識し、望ましい生活習慣を身につけることができる。                         |                                                                           |
|           | 職業生活に必要な習慣形成              | ○将来の職業生活に向けた基本的な習慣を身につけることができる。                                                                                                                 | ○職業生活を遂行するのに必要な実践的な習慣を形成することができる。                         | 継続                                                                        |
| 自己理解      | 自己有用感、振り返り                | ○「分かった」「できた」という体験の中で自己有用感を得ることができる。<br>○活動場面での振り返りをもとに次の活動に生かすことができる。                                                                           | 継続                                                        | 継続                                                                        |
|           | 長所・課題の理解                  | ○自分の長所や課題に気付くことができる。                                                                                                                            | ○客観的に自分の長所や課題を評価することができる。                                 | ○自分の長所や課題を踏まえて、自分の気持ちや考えをしっかりと持つことができる。                                   |
| 自己内省      | 物事に対する意欲                  | ○時間いっぱい集中する意識を持ち、目標を達成しようと学習に取り組むことができる。<br>○自主的・積極的に活動に取り組む大切さを知り、自ら努力を続けようとする気持ちを持つことができる。<br>○目標を立て、その達成に向けて取り組むことができる。                      | ○目標を達成するために、集中して学習に取り組むことができる。                            | ○課題解決に向け、自ら物事に取り組むことができる。                                                 |
|           | 課題を解決しようとする心              | ○自己決定・自己反省の過程を繰り返し、課題を解決する姿勢を持つことができる。                                                                                                          | ○自己決定・自己反省の過程を繰り返し、課題を解決しようとする習慣を身につけることができる。             | 継続                                                                        |
| 知識・技術     | 社会の仕組みなどの知識・技術            | ○集団生活を通して、社会のルール、マナー、礼儀などを意識して、行動に生かすことができる。                                                                                                    | ○社会のルール、マナー、礼儀などを、状況に応じて使うことができる。                         | 継続                                                                        |
|           | 社会制度やサービスに関する理解と実際生活での利用  | ○社会のルールや制度、職業に必要な資格、各種サービス、相談機関等に関する情報や知識を理解することができる。                                                                                           | ○社会生活上の規範、法の遵守、権利侵害等への対処方法などを理解することができる。                  | 継続                                                                        |
|           | 読み書き計算などの知識・技術            | ○金銭管理や読み書き、計算などの生活に必要な知識を身につけ、日常生活に生かすことができる。                                                                                                   | 継続                                                        | 継続                                                                        |
|           | 消費生活に関する基本的な事柄の理解と計画的な消費  | ○必要なものを計画的に消費することや預貯金などを通して保管の大切さを知ることができる。<br>○計画的な消費生活を送る上で必要な事柄や、労働の対価としての給与の意味を知ることができる。                                                    | ○収入と支出のバランスを考え、模擬通貨等を使って、計画的にお金を使ったり、貯蓄したりすることができる。<br>継続 | ○卒業後の収入と支出のバランスを考え、計画的にお金を使ったり、貯蓄したりすることが大切であると分かり、実行する意欲を持つことができる。<br>継続 |
| 職業        | 他者評価の受容                   | ○他者から受けた評価に、耳を傾け、理解することができる。                                                                                                                    | ○他者の考えや個性を尊重し、自分との差異を認めながらも受容することができる。                    | ○他者の気持ちや考えを理解・尊重し、自分のあり方・生き方に生かすことができる。                                   |
|           |                           | ○与えられた仕事の意味を理解し、集中して取り組むことができる。                                                                                                                 | ○手早さ、正確さ、丁寧さを意識しながら、与えられた仕事に取り組むことができる。                   | 継続                                                                        |
|           |                           | ○自分の言動が相手に及ぼす影響について知ることができる。                                                                                                                    | 継続                                                        |                                                                           |
|           | 職業理解                      | ○職場見学や実習を通して様々な職業があることを知り、働くことに関心を持つことができる。<br>○身の回りのいろいろな職業が社会や生活に果たしている役割や意義を理解し、その仕事に求められる能力などを考えることができる。<br>○職業との関係における自分の能力や適性を理解することができる。 | 継続<br><br>○自分の能力や適性を踏まえて、将来の職業について具体的に考えることができる。          | 継続<br><br>○職業生活の中にやりがいや生きがいを見いだし、前向きに自己の未来を設計するなど、社会の一員である意識を持つことができる。    |
|           |                           | ○学校生活や家庭生活において、自分が果たすべき役割があることを理解し、継続的に実行することができる。                                                                                              | ○社会生活の中で自分が果たすべき役割があることを理解し、実行することができる。                   | 継続                                                                        |
| コミュニケーション | 自分から相手に発信                 | ○場や状況に合わせた声の大きさで、挨拶・返事・報告ができる。<br>○敬語を使うなど、社会生活に必要な意思表現ができる。                                                                                    | 継続                                                        | ○その場に応じた挨拶・返事・報告や相手の人権を尊重した発言をすることができる。                                   |
|           | 状況に応じた言葉遣いや振る舞い           | ○相手の立場を考えて話したり行動したりすることができる。<br>○場や状況に応じた適切な言葉遣い、服装、身だしなみを心がけることができる。<br>○集団の中で、自分の思いや意見を適切に表現することができる。                                         | 継続                                                        | 継続                                                                        |
|           | 必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力 | ○必要な支援を他者に求めることができる。                                                                                                                            | ○必要な情報を伝えたり、自分の悩みを話せたりする関係を築き、自分の思いや意見を適切に伝えることができる。      | 継続                                                                        |
|           | 相手を受け入れ、自らそこに参加する         | ○相手の考え・気持ちを受け入れたり、集団に合わせたりすることができる。<br>○自分と相手の違いに気付き、異性や異年齢の人たちと共に活動することができる。                                                                   | ○相手の立場や考え方を理解して受け入れ、かかわることができる。                           | ○自分や他者のよい点を認め、思いやりを持って、よりよい人間関係を作り上げることができる。                              |
| 応用力       | TPOに応じた意思決定               | ○TPOに応じて何ができるか、何をすべきか考え、判断し選択することができる。                                                                                                          | ○自己の個性や興味・関心に基づいて、TPOに応じたよりよい選択をすることができる。                 | ○卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活において、自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うことができる。                      |
|           | 将来設計                      | ○目標を達成するためには行程があることを理解し、与えられた計画や行程に取り組むことができる。                                                                                                  | ○学校・寄宿舎生活、家庭生活において、計画を立て、物事に主体的に取り組むことができる。               | ○社会生活・職業生活等に必要な習慣を確立するとともに、余暇の活用等を図り、心豊かな理想とする将来の生活を前向きに設計することができる。       |
|           | やりがい・生きがい                 | ○好きな活動への意欲を学習活動へつなげることができる。                                                                                                                     | ○働くことにやりがいを感じる可以做到。                                       | 継続                                                                        |
|           | 情報活用                      | ○学校・寄宿舎・地域社会の中には様々な活動があることを、体験を通じて理解できる。<br>○社会の出来事に興味を持ち、働く人や仕事について調べることで、情報を得るためには様々な方法があることを体験を通して理解できる。                                     | ○社会の出来事に興味をもち、働く人や仕事について調べることで、様々な情報を収集し、自ら活用することができる。    | ○希望する進路の実現に向け、卒業後の生活に必要な情報収集・取捨選択し、自ら判断して活用することができる。                      |
|           | 人間関係                      | ○集団活動に参加し、他者と協力することができる。                                                                                                                        | ○集団において自分が果たす役割を理解し、周りと協力することができる。                        | ○集団の一員として自ら役割を理解し、協力していくとともに、その役割を遂行していくことができる。                           |
|           |                           | ○リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームとして協力・共同して活動に取り組むことができる。                                                                                                  | 継続                                                        | 継続                                                                        |